

Asian Diversity No.12  
by ASNET  
「日本・アジア学」講義紹介  
『里山学総論』

長い間日本人の暮らしの場であった「里山」は、戦後急速にその価値が低下し、開発による消失と利用放棄による荒廃が進行してきました。その里山が今、21世紀の自然共生社会のモデルとして国際的な注目を集めつつあります。昨年の生物多様性条約締約国会議(COP10)では、人と自然の良好な関係づくりを追究する取り組みとしてSATOYAMAイニシアティブが採択されました。

本科目では、里山を持続的な地域資源利用・生態系管理システムとしてとらえ、自然と人間のダイナミックな関係の変遷、多様な生きものが暮らせるしくみ、そして里山の将来について、自然科学・人文社会科学の両面から紐解いてゆき、自然共生社会を拓く「自然との共生の智慧」を皆さんとともに考えることを目指しています。

本科目は2日間の集中講義と1日の巡検により実施されます。講義では、生態学、緑地環境学、農村計画学、社会学、人類生態学など、多様な学問領域から里山に光があてられ、それらが体系化されるような構成となっています。最終日の巡検では、東京近郊の里山見学に出かけます。里山の自然と生きものや保全活動の現場に触れることで、都市住民や農家など多様な主体によって支えられている「里山のいま」を実感することができます。

受講者は農学生命科学研究科のみならず、工学系、新領域、法科大学院など多岐にわたっており、毎回活発な議論が繰り広げられます。また、国際社会への発信力とコミュニケーション能力の習得を目指し、講義をすべて英語で行っているというのも本科目の特色です。里山の問題を、アジアそしてグローバルな視点から分野や国境を越えて考えてみたい方、とくに留学生の皆さんにはお薦めの科目です。



巡検での自然観察の様子。ドジョウを探す受講生たち。  
(横浜市・新治市民の森)

文・写真：大黒俊哉

冬学期には姉妹科目『アジア自然共生論』を開講します。  
詳しくは、

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/edu/>

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

Relay Column

ワタシのオシゴト / 第68回

Rings around the UT

医学部附属病院看護部(看護師)

新井 喜洋さん

有事にはDMAT隊員として出動!



ヘリ搬送訓練

普段は附属病院の集中治療室で働いていますが、有事の際には日本DMAT隊員として活動をしています。DMATとはDisaster Medical Assistance Teamの略で、震災や航空機・列車事故等が発災した際に48時間以内に現場に駆け付け、救命医療を行う為の専門的な訓練を受けた医療チームです。現在は全国に500を超えるチームが編成されており、東日本大震災では日本全国の隊員が派遣され、東大病院のチームも出動しました。交通渋滞の中、11時間かけて仙台の若林地区に到着しましたが、津波による2次災害の危険性から警察も消防も沿岸部地域に立ち入ることができず、我々のチームも苦虫を噛み潰す思いでした。今後は首都直下型地震の発生も懸念されており、一人でも多くの方の手助けができるように、これからも日々、精進していきたいと考えています。



雪の残る野営応急救護所

得意ワザ：どこでも寝る  
自分の性格：おおざっぱ：神経質=7:3  
次回執筆者のご指名：谷本千嘉子さん  
次回執筆者との関係：ご近所に住むパパ・ママ友  
次回執筆者の紹介：育児と仕事を両立させる  
キャリア・ウーマン